

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)	
学校運営方針	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成をめざす。「さらなる飛躍をめざす糸高」のもと、生徒一人ひとりの「確かな学力」と「豊かな心」「健やかな身体」の三位一体的な形成を基盤とし、「生きる力」を醸成する。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
生徒の生活態度や学習態度など全般的に良好な状況であるが、生徒のさらなる学力向上と全人的な成長のため、すべての教員の教師力を高めていく必要がある。特に「糸高志学」の取組は、生徒一人ひとりに多様な見方・考え方の重要性を深く考えさせるものであり、「総合的な探究の時間」のさきがけとなるものである。これらの学習成果を学習指導や進路指導に生かすだけでなく、各学年次での外部に向けた公開発表会を今後も設定するなど精力的に取り組んでいきたい。 そして、平成31年3月に開業したJR新駅「糸島高校前駅」など本校の魅力を第6学区の全中学校生・保護者に理解を深めていただくよう、広報活動のさらなる充実を図る。	校訓「自主積極」の精神に則り、自尊心、思いやりの心、礼節・規律を尊び、豊かな人間性を育む。また、「鍛えて、ほめて、伸ばす」指導をとおして、糸高生としての誇りを醸成させる。	・教師の率先垂範による、時間厳守、挨拶、清掃、適切な言葉遣い等の活動を通して、生徒の自主性と積極性を養う。 ・特別支援教育の視点に立って、生徒理解を深め、生徒指導力の質的向上をめざす。 ・いじめに関する研修を重ね、認知度を高め、組織的・恒常的に取り組む。また、面談やアンケート、生徒観察などにより生徒理解を深め、安全安心な環境整備と強い信頼関係を築く。	
	「主体的・対話的で深い学び」を育む授業により、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」を育て、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう人間性等」を涵養する。	・「主体的・対話的で深い学び」を育む授業による学力の充実と、主体的に学ぶ態度を育成する。また、個に応じた学習指導・支援を充実する。 ・大学入試改革 (新テスト対応) や高大接続に関する研修を積極的に行い、時代と社会に求められる、本校が育成すべき人物像を明確に共有し、その実現のため計画的にキャリア教育を推進する。 ・学校の教育力向上を目指し、学校外の教育資源を積極的に活用する。また、「糸高志学 (糸学)」による教科横断的な学習活動を通じて、「地球的規模で考え、足元から行動する (Think Globally, Act Locally)」生徒を育成する。	
	部活動、学校行事などの特別活動をさらに活性化し、学校生活を充実させる。	・学校の活力の源である学校行事や生徒会活動、部活動指導のさらなる充実を通じて、糸高生としての自覚を高めさせる。 ・部活動、学校行事などの特別活動を通じて、地域や保護者とのさらなる信頼関係の構築を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
生徒育成部	教務課	新たな学びへ向けての授業改善の取組。	チャイムと同時に始まる授業、単元名・目当ての板書等を定めた「糸高スタンダード」の実践をさらに進める。 1時間の授業に少なくとも1回は「話し合う活動・表現する活動」を取り入れ、「思考力・判断力・表現力」の向上を図る。	
		学びに向かう力と学習評価の見直し。	資質・能力の三つの柱や適正な評価の観点から、評価方法を見直すとともに、より学びに向かう力を高めるものとする。 新たな学びを見据えた教育課程の研究・整備に努め、本校の特色化に向けたカリキュラム・マネジメントを実践する。	
	広報情報課	広報活動・広報誌のさらなる充実を図る。	組織的・計画的に広報活動を行い、中学校・学習塾への訪問 (延べ500校以上) や地域別保護者説明会で本校の魅力を発信する。 魅力的な学校案内・チラシ・ポスターを作成し、可視化された本校のよさを体験入学など多くの人々に発信する。	
キャリア教育推進部	生徒指導課	ICT機器活用 の充実及びホームページによる情報提供を充実させる。	ICT機器の貸出・返却状況の把握を定期的に行い、有効活用のための情報提供に努める。 学校行事や各学年の取組など本校の教育活動をリアルタイムで発信できるように役割分担を明確化する。	
		校訓を具現化する生徒、集団の育成を図り、充実した高校生活を確立する。	他の生徒の模範となる生徒の育成と、良好な人間関係を築くための、教員からの積極的な指導・助言を行う。 学校行事や生徒会活動、部活動を充実させ、目標に対して積極性を養い、最後まで諦めない心を教員が見守り、指導する。 いじめ・生活アンケートを活用して、生徒の学習環境の不安要素を職員が共有し解消することで学校満足度を更に高める。 日頃の学校生活や行事において、危機管理意識を自ら高める指導を行い、意識向上に取り組む。	
	進路指導課	変化の激しい社会の中で、必要とされる資質・能力の向上を図り、社会に積極的に貢献できる人材を育てる。	高大接続改革の視点に立ち、新テストに対応できる思考力・判断力・表現力を育成する取り組みを行う。 高校3年間を見通したキャリア教育を計画し、効果的に実施する。生徒の発達段階に応じ、「知識」(1年)、「経験」(2年)、「表現」(3年)を目標とする。 模試成績の分析等を学年団・各教科で行い、生徒に自らの可能性を認識させ、全力を出し切ることができるよう指導する。英検や漢検等の各種資格の取得向上を図る。 一般入試に対応できる学力の養成に努めるとともに、国公立大学の個別指導や小論文指導などの手厚い指導のもと国公立大学50名、西南学院大学100名、福岡大学150名合格を目標とする。	
糸高未来支援部	研修・図書課	教師一人ひとりの資質・能力の向上及び授業改善につながる校内研修を充実させる。	本校の課題認識及び解決のための校内研修会を年5回以上実施する。 相互授業参観の実施強化週間・授業アンケートを年2回以上実施する。	
		図書・視聴覚教育の更なる充実を目指す	第68号「糸高文林」は、糸高の文化を創造・表現する機能、年間の活動記録の機能を継承・発展させる。 図書館オリエンテーションの実施や、情報誌「らいぶらりい」(生徒図書委員会等)を発行するなど、図書館利用者の拡大を目指す。	
	保健安全課	生徒が心身共に健康な生活を送れるよう、職員間の共通理解を図り、指導とサポートに役立てる。	保健だよりを毎月発行し、熱中症(夏季)・感染症(冬季)等に関する健康情報をタイムリーに提供することで、疾病や事故の予防に努め、生徒の健康管理能力向上に役立てる。 保健室利用状況について学年・男女別に集計、月毎の統計を作成し、全教職員で情報共有することで、教育活動の充実を図る。 美化コンクールの実施(2学期)やワックスがけの実施(5月、10月、3学期)により、校内の環境美化を推進する。 清掃活動の徹底を行い、「きれいな糸高」を全職員・生徒で実現する。	
糸高未来支援部	糸学課	式典(入学式、卒業式、創立記念式)や学校行事の円滑な運営を行う。	「報・連・相」を徹底させ、各式典、学校行事等、総務及び各関係分掌との連携を密に行い、諸行事の完成度を高める。 業務の標準化・情報化を行い、全職員が組織的・協働的に運営できる環境をつくる。	
		生徒と教師が共に学ぶことで、糸学を「生きた学び」とする。	生徒の学びを進化させるために、ICT機器の活用だけでなく、まとめ方や伝え方等の探究の技法を充実させる。 教師の指導力を高めるために、関連図書などの情報収集と共有を徹底するとともに授業毎の指導案を充実させる。	
	研究開発課	Classiを活用した授業改善方法を開発する。	主として研究開発課員を対象とした研修を通してClassiを活用した授業改善方法を開発する。 研究開発課員が中心となった職員研修を通してClassiを活用した授業改善方法を職員に提案する。 「新たな学びプロジェクト 研究協力校(県教委)」として授業改善方法を開発する。 研究開発課のメンバーが中心となって積極的に他校の実践発表等に参加する。 研究協力校として新たな学びプロジェクトの実践をポスターにまとめ、校内外に発表する。	
糸高未来支援部	第1学年	生徒と保護者、教師の互いの信頼関係を確立し、自律心と思いやりの心を持った社会性豊かな人材を育てる。	保護者会や進路講演会等をおとして、社会で生き抜く力をつけるための教育への協働関係を構築する。 規範意識と思いやりを身につけさせ、お互いを尊重できる心を育てるなど社会に貢献していく資質・能力を高める。	
		志をもって意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせ、進路意識の早期確立に努める。また何事においても高次の目標を達成できる「思考力・判断力・表現力」を育成する。	自己管理能力を高め、目標を持って主体的に学習に取り組む姿勢を養う。 社会の一員としての自覚と課題意識を持たせ、具体的目標を持たせることで将来の活躍する自分像を明確にさせる。	
	第2学年	生徒と保護者、教師の互いの信頼関係を確立し、志をもって意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに「思考力・判断力・表現力」のさらなる育成を図る。	保護者会、学年通信などをおとして本校の指導の目的と方針を丁寧に伝え、社会の変化とこれからの時代を生き抜く力をつけさせるための教育への理解と協力をあおぐ。 習得型学習から課題克服型学習への転換を図る。思考力や表現力の土台となる言語能力を育成し、社会的視野を広げる取り組みを継続して行う。	
第3学年	探究学習の基盤となるよう社会的課題に向き合い、学び続ける姿勢を育成する。また、進路実現に向けた意識の確立を図る。	糸学をおとして、社会の一員としての自覚と課題意識を持たせ、将来どのような形で社会に貢献していくかイメージさせることで進路意識を高める。 具体的目標の設定、振り返りを繰り返し、学年全体の意識向上をはかる。検定試験などに意欲的に挑戦する意識を育て、学びの資質・能力向上をはかることで自信を持って進路を切り開いていけるよう指導する。		
	自尊心や思いやりの心をもち、社会へ積極的に貢献できる人材を育成する。	様々な機会を活用してリーダーとして率先して活動できる生徒を増やし、活動後も培った意識を継続させ、他生徒の手本となるよう指導する。また、行事の事前・事後指導を行うことで、行事の教育的効果を高める。 社会人として、様々な社会に参画する自分像をイメージさせ、「協働」を意識した自分作りを目指させる。		
	「自学」の習慣や意識を身につけさせ、進路実現を図ると共に、生涯にわたって学習を続けていく資質・能力を育む。	家庭学習時間を増やすような課題となるよう内容や提出方法を生徒の実態ふまえて進めていく。また「朝読書新聞」の取組を充実させ、社会への関心を喚起し、進路意識向上とともに国語力向上を図る。 生徒一人ひとりに自らの適性や能力をしっかりと把握させ、安易な上級学校進学や就職先選択をさせない。そして、真に自らが取り組まなければならない課題を明確化させる。また、進学がゴールでなく、次へのスタートであると認識させ、受験終了後も学習に真摯な姿勢で取り組むよう指導する。		